

からくり木球遊具

木球の中には、直径15mm、厚さ5mmの磁石が2枚入っています。



レバーを押し下げると、厚さ10mmの板の裏側でエンドレスベルトが回り、ベルトに取り付けてある磁石に引きつけられた木球が、板の上を滑るように上っていきます。



木球は磁力によって針金にぶら下がり、らせん状に滑り降りていきます。



雲から太陽が、木の陰からそれぞれ姿を現します。



糸を張ったコースがあり、木球は高くパウンドしながら進んでいきます。



虹とカエルがそれぞれ現れ、そしてまた姿を消します。



森の木と花畑の花は下に針金が延びていて、木球が近くを通ると、その磁力に反応して揺れます。ここを通る木球は見えませんが、揺れている木や花からその位置がわかります。



レバーを押し下げるとバネの力で自動的に元の位置まで跳ね上がるので、レバーを握ることができない児童でも簡単に操作できます。また、前板は床から最大360mmの高さまで切り欠いてあります。車いすに乗った児童が使用する場合、フットプレートに載せた足の先をこの部分に入れることで、より遊具に近づいて遊ぶことができます。

これらの遊具の開発は、(株)東京ランドスケープ研究所札幌事務所からの受託研究によって行いました。